

■ 舟運と陸上交通、域内施設連携によるMaaSサービスを活用したシームレスな回遊性向上の実現
 三方を水辺に囲まれ、陸側は南北に幹線道路が通り、東西の回遊性向上が望まれる竹芝エリアにおいてNFCタグ、LINE等のツールと地域交通、域内施設が連携したサービスをパッケージとして提供し、行動変容を促す。

■ 対象区域の概要

- 名称：竹芝地区
 - 面積：28ヘクタール
 - 人口：2,059名
(2023年1月現在)
- ※出典：港区統計データ（港区海岸一丁目人口）



■ 都市の課題

- 竹芝における課題
 - ・鉄道路線、幹線道路が南北に通り東西の回遊性向上が望まれる。
 - ・三方を水辺に囲まれている。
- データ取得における課題
 - ・回遊に関するデータは管理主体が複数存在する為、回遊性向上施策を行うためのデータ取得が難しい。
- 都市交通における課題
 - ・モビリティサービスの乱立

■ 解決方法

- 地域特性である舟運活用に加え、陸上交通、域内の施設と連携することで、移動に伴うインセンティブを付与し、回遊性向上を目指す。
- NFCタグ、LINEを活用することにより、実証参加者の属性、行動を把握することで、エリアの特性に沿ったサービスの継続提供を行い、回遊性向上を促す。

■ 運営体制



■ KPI (目標)

- <連携数> 定量目標
- ・モビリティ連携数：5件
 - ・モビリティスポット連携数：6施設
 - ・サービス連携施設：6施設
 - ・イベント連携：2件
- <満足度> 定性目標
- ・利用者満足度：80%(実証後アンケートにて確認を行う)

■ 将来的に域内交通、集客施設と連動したMaaSサービスのパッケージ化、他地区への展開を目指すため、デジタルエリアマネジメントツール(LINE)やNFCタグの技術を用いて①陸上、海上をシームレスに繋ぐ交通手段との連携、②観光資源と連携したエリアの魅力・価値向上、③共通UIの整備と利用者データ取得を実施

VISION：最先端技術とコンテンツの産業集積地として
70年間進化し続ける最先端でチャレンジな街、竹芝



【取組の全体像】竹芝エリアでは、東京版 Society5.0の実現に向けて「スマート東京」を提唱しており、様々な取組テーマの中から防災面と交通面を中心にスマートシティ化を進めており、管理者と市民それぞれの利便性を向上させることを目指す。各施策において収集したデータはスマートシティプラットフォームである都市OSに蓄積され、分野の異なる施策やオープンデータ等との掛け合わせにより、社会課題の解決やエリア価値向上を図っていく。

*1: (出所) 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授 出口氏 資料より

・実証エリア(竹芝エリアを中心に西は東京タワー、東は豊洲までを実証、連携範囲とする)



- ・東西の回遊に課題のある同エリアにおいて、地域交通や域内施設と連携し移動に対するインセンティブを付与(クーポンなど)。
- ・モビリティ利用、インセンティブ取得時の共通UIとしてLINEを活用。
- ・NFCタグを介して利用者の属性データを取得。

東西の回遊性向上が望まれる竹芝エリアの課題を解決する為、NFC(近距離無線通信)の技術を用いて、エリア内の集客施設、域内交通と連携したスタンプラリー事業を実施。

■ 実証実験の内容

① LINE、NFCタグを用いたサービスの提供、データの取得

- ・実装済の竹芝エリアマネジメントLINEアカウントを活用して、モビリティサービスと接続する共通UIを構築。
- ・NFCタグを域内施設、モビリティのスポットに設置した回遊施策(デジタルスタンプラリーを通じたインセンティブ付与)を実施することで回遊性のデータを定量的に取得。



↑ 実証におけるUI



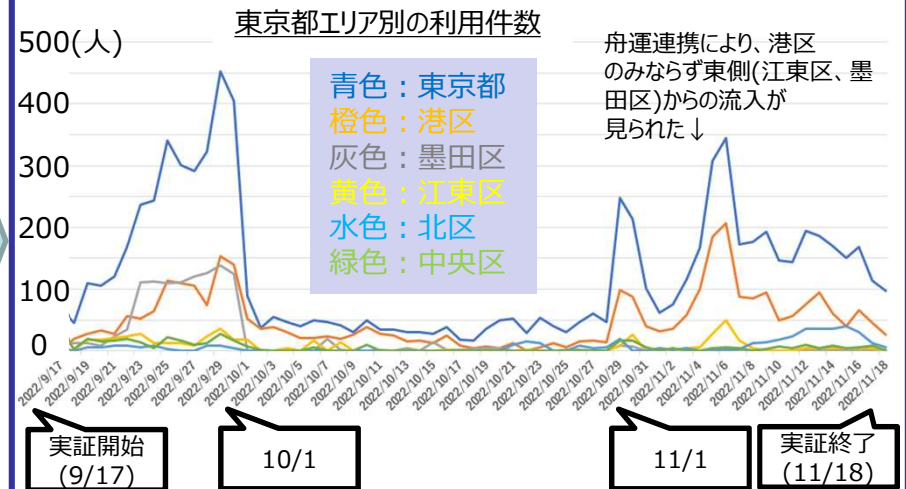
↑ NFCタグ

② 地域交通、域内施設と連携したサービスの提供

シェアサイクルスポットや船内、エリア内の集客施設にNFCタグを設置し、接触に伴うポイントを付与し、割引等を得られる環境構築を行い、エリア内の回遊性向上を図る。

■ 実証実験で得られた成果・知見

- ・回遊に伴う割引などのインセンティブ付与により、行動変容を誘発することが確認された。
実証参加者：1,051名、利用者満足度：92%
- ・エリア特性である舟運との連携により、三方を水辺に囲まれていながらも、他地域からのエリア流入が確認された。



・実証後、竹芝エリアを回遊する動機づけとして求めるものをアンケートにて確認し、店舗や商業・観光施設と連携したインセンティブを求める声が多く、今後の実装フェーズにおける連携先として選定予定。

・交通の特性はエリアにより異なるものの、低コストかつ簡易的な仕組みで回遊性向上が実現できることが判明した。

LINE、NFCタグを活用した回遊性向上、実証事業参加者の行動変容を促すことが確認できた一方で、交通サービスとの連携深度は途上。利用者目線に立ち、複数の交通事業者が提供するサービスと回遊性向上ツールのシームレスな連携により共通のUIで予約から決済まで完結できる環境構築を目指す。

■ 実証実験で得られた課題

① 定常施策として推進するための環境構築

回遊性向上、地域特性の舟運活性化を目論み、連携施設のクーポン等を参加者の移動インセンティブに設定した結果、行動変容を促すことができた一方、社会実装を見据えた際に、販促原資の確保等恒常的にインセンティブを付与する仕組みの構築が必須。

→地域交通事業者、域内施設との連携手法につき、継続検討。

② 交通事業者との連携

各事業者による交通サービスが乱立している状況に対して、エリアマネジメントLINEを共通UIとすることで、シームレスな利用環境の実現を目指したが、一部事業者のデジタル化の遅れやAPI未実装など当方要因でない要素により連携が困難であった部分もあり、連携先におけるユーザビリティの向上も求められる。

また、社会実装を見据えた際に、既存の交通事業者との諸調整、承認手続きなどの制度面の整備も必要と思われる。

■ 今後の取組 : スケジュール

① 回遊性向上施策の継続実施 <短期/現在>

デジタルエリアマネジメントツールを用いた回遊性向上施策(例:スタンプラリー等)を継続的に実施のうえ利用者属性、行動履歴等からエリアに適した施策、機能改修を実施。

② 連携施設/モビリティの拡大 <短・中期>

短期の施策において取得したデータより、利用頻度の高いモビリティ事業者との連携深度化打診、新たなモビリティ等時代に即した移動手段との連携を継続して模索。並びにサービス提供者側のAPI実装等の環境整備の必要性を施策の数値実績等を用いて訴求していく。

③ 施策の横展開 <中・長期>

回遊性向上施策の機能をデジタルエリアマネジメントツールに標準搭載したうえで、地域特性を鑑みた環境にカスタマイズし、低コストかつ簡易的な仕組みで他地域への横展開を目指す。

<今後のロードマップ>

~2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
共通UI開発 実証	回遊性向上施策の継続実施 連携施設/モビリティの拡大		施策の 横展開